
青いたぬきとチビたぬき

オプティマスプライム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青いたぬきとチビたぬき

【Nコード】

N0812S

【作者名】

オプティマスプライム

【あらすじ】

自称・不幸少女 八神はやての元にやって来たのは、闇の書のヴォルゲンリッターや魔法の力なんかではなく。

22世紀からやって来た猫型ロボット《ドラえもん》だった。

これは、八神はやたとドラえもん。そして、その他もろもろがあり
なす感動とコメディである。

プロローグへぼく、ドラえもん（前書き）

新連載。

多分、誰もしたことがないドラえもんのコラボレーションです。

初っぱなですが、八神はやての曾孫の名前、募集中です。

女の子です。

誠に勝ってながらよろしくお願いいたします。

因みに、はやては足は悪くありません。

プロローグへぼく、ドラえもん

八神はやては孤独だった

父母を早くに亡くし、親戚も彼女を引き取ってくれる人は誰もいない。

今、住んでいる家は両親が遺してくれた家と遺産で生活には困ってはいない。しかし、彼女は孤独だった

彼女は願った……………友達が欲しいと……………

そして、そんな彼女の元にやって来た一体の猫型ロボット

「ぼくドラえもんですー!!」

これは一人の少女《八神はやて》と《ドラえもん》の日常茶飯事の物語である。

私、八神はやては今困惑してます。

今日はいつも通り朝起きて、いつも通り朝食の準備をして今から自分の部屋でこの前図書館から借りた本でも読もうかと思ったら……

……

「な、なんやあの青いのは？」

なんと、私の机の引き出しから丸くて青いのがはみ出しています。

「んぐぐぐ……頭が抜けない……」

なんや、結構野太い声がしたような

「ちょっとそこの君。抜くの手伝ってくれない？」

「ひゃ、ひゃい!？」

わ、私呼ばれたん!？

つて、困った人(?)は助けてあげなってお父さんが言ってたやんか。

私は急いで行き、引き出しの前に立った。とりあえず平手で掴んで後ろに引っ張った。

「んぐぐぐ!!あかん、填まっとるでこれ!!」

「頑張つてえ!!」

「ん〜!!うわっ!?!」

スポツといきなり抜けたら、私は後ろに飛ばされた。

頭を抑えて尻餅をつく。

「あいたたた。あ……」

「ふう…手伝ってくれてありがとう。君がはやてちゃんだね?」

「は、はい。あれなんで私の名前?それにあなたは…」

「そういえば、自己紹介がまだだったね。僕は猫型ロボットの《ドラえもん》!!」

「ドラえ……もん?」

「うん!!よろしくね、はやてちゃん!!」

これが私の人生を大きく変えた出来事。私の一番大切な友達との出会いでした。偶然にも今日は私の誕生日でもあります。

きっとこれは、神様が私にくれた誕生日プレゼントだと思いました。

プロローグへぼく、ドラえもん〈後書き〉

次回。

八神はやての元にやって来たドラえもん。

果たしてドラえもんが来たのは何故なのか？

そして、新たな登場人物が？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0812s/>

青いたぬきとチビたぬき

2011年10月8日22時16分発行